教材 ⑦	幸せって何？ ～ラオスで生活する人々を通して～

目的：○自分にとっての幸せ・不幸せを考え、自分やラオスで生活する人々は幸せといえるかどうか考える。
○幸せのとらえ方は人それぞれ違うことに気付き、多様な価値観を認めることができる。

対象：**小学校中・高学年**
時間：**45分**
準備するもの：ラオスの大人や子どもの日常が分かる写真（83 頁～84 頁参照）、ワークシート
学習の流れ

時間（分）	学習者の活動	進め方とポイント
導入 （ 10 分）	①自分にとっての幸せなこと・不幸せなことって何か考える。 ・数名に発表してもらい、全体で共有する。 子どもの反応例 ・幸せなこと（ご飯が食べられる・遊べる・勉強できる） ・不幸せなこと（家がない・お金がない・不便）	○幸せ・不幸せについてよく分からない児童には事前に国語辞典で調べさせておく。 ○子ども達の発想で自由に考えさせる。
展開 （ 15 分）	②ラオスで生活する大人や子ども達の写真を見てもらい、ラオスの人々は幸せといえるか、それとも不幸せなのか自由に考える。 子どもの反応例 写真1：子守をする女の子 幸せ：兄弟の面倒をみれるなんて幸せ。家族が一緒だから。 不幸せ：子どもが面倒をみるなんてありえない。遊びたい。 写真2：相互扶助の子ども 幸せ：みんなで助け合っているから。楽しそう。 不幸せ：家族と離れるなんて嫌だから。お金に困っている。 写真3：釣りをするおじさん達 幸せ：楽しんでやっている。仲が良さそう。 不幸せ：川が氾濫して洪水になるなんて不便。困る。 写真4：托鉢するラオスの男性 幸せ：国の文化だから。みんなが仏教を信仰しているから。 不幸せ：半強制的とか嫌だから。男の人だけかわいそう。	○写真を拡大して黒板に掲示してももいいし、テレビで映し出しても良い。 ○写真の説明をしながら掲示し、考えさせる。 ○自分達と違う生活をしているから幸せなのか不幸せなのか問いながら考えさせる。
4×グループ数 （ 15 分）	③自分の考えをグループ・全体で共有する。 ・3～4人程度のグループに分かれて、ラオスの人々は幸せか、不幸せかを自分の考えをもとに意見を交流する。 ・グループで出てきた意見を全体の場で発表する。	○友達の考えを共感的に理解させるようにする。 （批判や否定的な言葉は言わない）
まとめ （ 5 分）	④『本当の幸せって何？』を再度考え、みんなでまとめる。	○日本人から見ると貧しそうに見える暮らしでも、人それぞれの価値観によって幸せか不幸せかがあることに気づき、それらを認められるようにする。

学習後の展開：
国が違ったり、文化が違ったり、生活環境が違っていたりすると、それぞれの生活に応じた多様な価値観が存在するということ。また、自分の幸せの基準と他人の幸せ基準は全く違うということをこの学習を通して、子ども達なりに考えることができた。今後の様々な学習とも絡めながら、他者の考えや多様な価値観を認め、理解し合えるように適宜指導していく。

本当の幸せって？

年　　組　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．幸せなこと

2．不幸せなこと

3．自分は幸せだと思う？　　はい　　いいえ

4．ラオスの人々は幸せだと思う？　　はい　　いいえ

5．その理由

6．今日の感想

写真①

写真②

写真③

写真④

写真①

場所：ラオス（ウドゥムサイ県）

お酒（ラオラオ）を作っているところで、幼い子どもが赤ちゃんの面倒を見ているところ。

子ども達も親の手伝いをしながら子守をしている。

写真②

場所：ラオス（ウドゥムサイ県）

ウドゥムサイ県の山岳民族の子ども達。ラオスの地方の方では、金銭的に厳しい家族とかがいると、親戚に子どもを預けて、そこで生活させてもらっている。そうやってみんなで助け合いながら生活している。（相互扶助）

写真③

場所：ラオス（ビエンチャン市）

魚捕りを楽しんでいる男性たち。大雨の影響で排水が追いつかず、川の水も増水して道路も大混雑している最中でもこの状況を楽しみながら魚捕りをしている。私達からすると大きな自然災害にも関わらず、ビエンチャン市の人々はこの不便ともいえる状況を普通に過ごしていた。

写真④

場所：ラオス（ルアンパバーン県）

仏教を信仰しているラオスの人々の男性は、一生のうちに一度はお寺に入らないといけない。そして朝早くから托鉢（僧侶の人達がお寺の周りを歩き、食べ物等をもらう行為のこと）が行われている。大人から子どもまで、年齢層も幅広い。